キズナエピソード

百波瀬 ここあ　1話

//ヴィジュアルノベル形式開始

悪魔どもとの激しい戦いに勝利した俺たち。

そんな時、俺はここあに話しかけていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［黒猫］

「大丈夫だったか、ここあ？」

［ここあ］

「オムちゃん、心配してくれてる、優しー！

でも、ここあは全然平気だよ。

この衣装はカワイイし、戦いもちょっとオモシロイし？」

［黒猫］

「……そんな理由でいいのかよ」

［ここあ］

「いーのいーの。

ここあの人生は、オモシロイのが楽しくて、

カワイイのが正義なんだから！」

［黒猫］

「……！」

［ここあ］

「どうしたの、オムにゃん？

美味しそうな魚の匂いでもした？」

［黒猫］

「……そんなわけないだろ。

ほら、さっさと行くぞ」

//ADV形式終了

//暗転

//場面転換：白い部屋

//ヴィジュアルノベル形式開始

白い部屋に戻って来た俺は、感慨深くため息を吐いた。

「オモシロイのが楽しくて、カワイイのが正義なんだから！」

この言葉に強い既視感を覚える。

まるで学生時代の青春の匂いが思い起こされるような、

そんな感覚……。

そんな時――

//ページ切り替え

突如として、俺は耐えがたい睡魔に襲われる。

視界がぼんやりとしたモヤに包まれる中で、

俺は知りもしない記憶を垣間見た。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//隣町のスーパー・店内

［とびお］

テレビで紹介されていたマドレーヌが食べたい。

下校前になって、そうお使いを頼まれた。

お小遣いにつられた俺は、隣町まで足を運んでいた。

［とびお］

待機列が長くて疲れたものの、目的の品は無事購入。

ジュースを買おうかとスーパーに立ち寄ったときだった。

小さな女子生徒が話しかけてきたのは。

［ここあ］

「おやおや、まあまあ。

その制服、有羽のだよね？

ここらへんで同じ学校の子と会うなんて、珍しー」

［とびお］

「制服……って、君も有羽の生徒？

えっと1年生かな？」

［とびお］

外見からそう判断して尋ねてみると、

彼女はおかしそうに笑って俺の背中を叩いてきた。

［ここあ］

「にゃはは。まぁ、そう見えるよね、この身長じゃ。

ところがなんとなんと～……

ここあは3年生なのでーす。いぇい」

［とびお］

「え、先輩？　ホントに!?」

［ここあ］

「あははは。まぁ、驚くよね。自分でもびっくりだもん。

この年にもなってこんなに成長してないとは。

別のところはこんなに大きく成長してるけど！」

［とびお］

そう言って、胸を強調するポーズをとってくる。

……なんというか、ノリが独特な人だ。

［ここあ］

「なになに～？　君もお買い物？

どうせならパイセンと一緒に買い物する～？」

［とびお］

ここあは自分のペースに巻き込むのがうまかった。

気づけば俺は世間話をしながら、

彼女と一緒に買い物をして回っていた。

//暗転

//隣町のスーパー・外

［２人の少年］

「お姉ちゃーん、むかえにきたよー！」

［とびお］

買い物を終えて二人一緒に外に出る。

すると、小学生くらいの男子2人が

とてとてとこちらに近づいてきた。

［ここあ］

「おー！　和哉に達哉！

ここあのこと、迎えに来てくれたの？

優しい～！　よしよしよしっ！」

［とびお］

「弟いるんだね。すごく似てるけど、双子？」

［ここあ］

「そうだよー。

こっちのやんちゃなのが和哉で、

こっちのわんぱくなのが達哉」

［とびお］

「言われても違いがわからないな……。

よろしくな、和哉くんと達哉くん」

［とびお］

「ちなみに2人とも、

やっぱり野球が好きで

幼馴染の女の子を取り合ったりしてるのか？」

［和哉］

「何言ってんだこの人！」

［達哉］

「サッカーの方が好き！」

［とびお］

「……なるほど」

［和哉］

「お姉ちゃん、この人だれ？

もしかして姉ちゃんの恋人？　ヒューヒュー！」

［達哉］

「ってことは、未来のお兄ちゃんだよね！

俺達と一緒に遊べー」

［とびお］

ここあの弟たちが俺の腕を引っ張って催促する。

な、なんてパワフルさだ。

［とびお］

「おいおい、俺は通りすがりの人間で

お前たちのお兄ちゃんじゃない」

［和哉］

「オニイちゃんじゃないなら、オニちゃんね！」

［達哉］

「わー、鬼が出たぞー！

皆さーん、避難してくださーい！」

［とびお］

「こら、お前らなぁ。

そんなに騒ぐと……食べちまうぞー！　がおー！」

［和哉＆達哉］

「あはははは！

鬼だー！　鬼ちゃんだー！」

=========================スチルカットシーンA開始=========================

［とびお］

結局俺は、ここあの弟たちと付き合って

めいっぱい遊んでしまった。なんていうか、ノリで。

［ここあ］

「とびおっち、やるねぇ」

［とびお］

「なにがだよ？」

［ここあ］

「弟たちがあんなに楽しそうなの、久しぶりに見たよ。

今ここあの中で、

とびおっちの好感度グイグイアップしてるよ～」

=========================スチルカットシーンA終了=========================

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

その時に見せたここあの笑顔は、本当に嬉しそうだった。

「先輩って、なんかかわいいですね」

だから、そんな言葉をふと漏らしてしまう。

するとここあは「そうでしょ？」とすました顔をしたのだった。

「なんてったって人生は

　オモシロイのが楽しくて、カワイイのが正義なんだから！」

//ヴィジュアルノベル形式終了

//1話END